



令和7年度 秋田県消防功労者表彰式



題 字
初代会長 松野 盛吉
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 樋渡 徹
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubairainsatsu.co.jp>



消防庁長官表彰

令和7年度秋田県消防功労者表彰式が秋田県及び秋田県消防協会の主催により、3月24日(火)に秋田県庁第二庁舎大会議室で開催され、受章者など約150人が出席しました。式典では、消防庁長官表彰、秋田県知事表彰、日本消防協会定例表彰が伝達され、最後に受章者を代表して黒崎博秋田市消防団副団長が謝辞を述べました。

皆様、誠におめでとうございます。



黒崎副団長代表謝辞



日本消防協会会長表彰

2026年度全国統一防火標語
火の確認
いい日を支える
いい習慣



本県受章者の皆さん

第78回 日本消防協会 定例表彰式

3月6日(金) ニッショーホール(東京都港区)において、第78回日本消防協会定例表彰式が行われ、受章者や消防関係者約400名が出席して、特別表彰「まとい」など各章の授与が行われました。

本県からは、表彰旗1団、竿頭授3団、優良女性消防隊1隊、特別功労者、功績章、精進章、勤続章、永年勤続職員表彰合わせて435名が受章し、3月24日(火)の令和7年度秋田県消防功労者表彰式で伝達されました。

消 防 庁 長 官 表 彰

◆功 勞 章 (3名)

能代山本広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	小山内 寿	秋田市消防本部	消 防 監	安 田 聡
小坂町消防団	団 長	澤 口 紀 夫			

◆永年勤続功労章 (68名)

能代山本広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	伊 藤 均	秋田市消防本部	消 防 監	高 橋 公 成
秋田市消防本部	消 防 監	安 田 勝 也	能代山本広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	今 井 正
秋田市消防本部	消防司令長	宇佐美 晃 市	男鹿地区消防本部	消防司令長	大 越 新 一
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	門 脇 哲 徳	大館市消防本部	消防司令長	北 林 真
由利本荘市消防本部	消防司令長	熊 谷 正 勝	五城市目町消防本部	消防司令長	佐々木 貴 仁
横手市消防本部	消防司令長	佐 藤 正 樹	湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	高 橋 敦 志
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	高 橋 薫 幸	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	田 口 吉 明
北秋田市消防本部	消防司令長	松 橋 雅 徳	鹿角広域行政組合消防本部	消 防 司 令	千 葉 茂 雄
にかほ市消防本部	消 防 司 令	土 井 日 出 司	横手市消防団	副 団 長	伊 勢 力
秋田市消防団	副 団 長	黒 崎 博	大仙市消防団	副 団 長	小 松 誠
大仙市消防団	副 団 長	佐々木 禎 春	にかほ市消防団	副 団 長	佐々木 讓
美郷町消防団	副 団 長	鈴 屋 和 基	大仙市消防団	副 団 長	高 橋 錠
湯沢市消防団	副 団 長	高 橋 宗 男	仙北市消防団	副 団 長	松 橋 広
横手市消防団	分 団 長	阿 部 征 喜	秋田市消防団	分 団 長	石 塚 一 志
横手市消防団	分 団 長	石 橋 一 則	井川町消防団	分 団 長	伊 藤 清 勝
鹿角市消防団	分 団 長	稲 垣 公 博	大仙市消防団	分 団 長	大信田 祐 紀
能代市消防団	分 団 長	大 谷 潤 美	秋田市消防団	分 団 長	川 村 良 美
羽後町消防団	分 団 長	菊 地 貞 一	大瀧村消防団	分 団 長	清 塚 淳 一
北秋田市消防団	分 団 長	九 島 敏 昭	秋田市消防団	分 団 長	工 藤 重 仁
能代市消防団	分 団 長	小 林 司	男鹿市消防団	分 団 長	笹 川 豊
由利本荘市消防団	分 団 長	佐々木 直	秋田市消防団	分 団 長	佐々木 弘 美
横手市消防団	分 団 長	佐々木 真	大仙市消防団	分 団 長	佐 藤 新 太 郎
八郎瀧町消防団	分 団 長	佐 藤 毅	横手市消防団	分 団 長	佐 藤 徳 松
由利本荘市消防団	分 団 長	柴 田 晃 央	瀧上市消防団	分 団 長	澁 谷 浩 和
三種町消防団	分 団 長	鈴 木 寿	由利本荘市消防団	分 団 長	高 野 和 文
鹿角市消防団	分 団 長	高 村 智	五城市目町消防団	分 団 長	館 岡 英 尚
鹿角市消防団	分 団 長	中 島 善 年	仙北市消防団	分 団 長	中 村 和 好
大館市消防団	分 団 長	畠 山 幸 夫	男鹿市消防団	分 団 長	原 田 正 樹
北秋田市消防団	分 団 長	平 川 貴 之	秋田市消防団	分 団 長	古 木 稔 裕
横手市消防団	分 団 長	益 子 雄 光	男鹿市消防団	分 団 長	三 浦 肇
藤里町消防団	分 団 長	山 田 浩 人	八峰町消防団	分 団 長	米 森 悦 浩
由利本荘市消防団	副 分 団 長	池 田 一 治	大館市消防団	副 分 団 長	近 江 禎 彦
大館市消防団	副 分 団 長	鎌 田 敏	由利本荘市消防団	副 分 団 長	小 林 正 義
小坂町消防団	副 分 団 長	千 葉 操	由利本荘市消防団	部 長	矢 野 和 博

◆賞状 (緊急消防援助隊) (13消防本部)

秋田市消防本部	横手市消防本部	大館市消防本部	由利本荘市消防本部
北秋田市消防本部	五城市目町消防本部	湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	
能代山本広域市町村圏組合消防本部	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部		
鹿角広域行政組合消防本部	男鹿地区消防本部	湖東地区消防本部	にかほ市消防本部

日本消防協会会長表彰

◆特別功労章 (1名)

秋田県消防協会 理事 鹿角市消防団 団 長 内 田 清 隆

◆優良消防団 (表彰旗) (1消防団)

小坂町消防団

◆優良消防団 (竿頭綬) (3消防団)

大潟村消防団 秋田市消防団 仙北市消防団

◆功績章 (17名)

小坂町消防団	分 団 長	浅 利 和 彦	大館市消防団	副 団 長	佐 藤 良 二
大館市消防団	副 団 長	鳴 海 正 春	大館市消防団	部 長	笹 島 眞 理 子
三種町消防団	副 団 長	田 森 正 志	潟上市消防団	団 長	古 戸 信 雄
男鹿市消防団	副 団 長	杉 本 一 敏	秋田市消防団	分 団 長	伊 藤 巧 一
秋田市消防団	分 団 長	鈴 木 浩 慶	由利本荘市消防団	副 団 長	佐々木 善 永
にかほ市消防団	副 団 長	須 田 敦	仙北市消防団	副 団 長	武 藤 重 和
美郷町消防団	副 団 長	佐々木 吉 則	横手市消防団	副 団 長	高 橋 良 昭
横手市消防団	副 団 長	佐 藤 一 生	湯沢市消防団	副 団 長	高 橋 宗 男
湯沢市消防団	分 団 長	伊 藤 文 雄			

◆精績章 (41名)

鹿角市消防団	分 団 長	大 森 誠 一	鹿角市消防団	分 団 長	小 館 信 彦
大館市消防団	副 団 長	花 田 寿	大館市消防団	副 団 長	川 田 和 徳
北秋田市消防団	分 団 長	平 川 貴 之	上小阿仁村消防団	分 団 長	鈴 木 清 光
能代市消防団	分 団 長	大 谷 潤 美	能代市消防団	分 団 長	小 杉 山 正
三種町消防団	副 団 長	池 内 清 浩	八峰町消防団	副 団 長	木 村 啓 二
男鹿市消防団	副 団 長	高 田 照 彦	潟上市消防団	団 員	鎌 田 洋 之
五城目町消防団	副 団 長	宮 崎 博 之	井川町消防団	副 団 長	湊 一
秋田市消防本部	消 防 監	千 葉 智 広	秋田市消防本部	消 防 司 令 長	舟 木 稔 昭
秋田市消防本部	消 防 司 令 長	船 木 浩 之	秋田市消防団	分 団 長	鈴 木 秀 美
秋田市消防団	分 団 長	佐 藤 守	由利本荘市消防団	分 団 長	今 野 強
由利本荘市消防団	分 団 長	菊 地 三 男	由利本荘市消防団	分 団 長	遠 藤 典 之
由利本荘市消防団	分 団 長	眞 坂 博 之	にかほ市消防団	分 団 長	渡 邊 剣
にかほ市消防団	部 長	今 野 裕 子	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 司 令 長	齊 藤 雅 樹
大仙市消防団	副 団 長	小 松 伸 一	大仙市消防団	副 団 長	田 口 浩 秀
仙北市消防団	分 団 長	藺 藤 博 行	美郷町消防団	副 団 長	鈴 屋 和 基
横手市消防団	副 団 長	近 寿	横手市消防団	分 団 長	佐々木 真
横手市消防団	分 団 長	佐 藤 徳 松	横手市消防団	分 団 長	高 橋 尚 也
横手市消防団	副 団 長	伊 勢 力	湯沢市消防団	分 団 長	宮 原 誠
湯沢市消防団	分 団 長	由 利 哲 彦	湯沢市消防団	分 団 長	村 上 孝 司
湯沢市消防団	班 長	高 橋 千 鶴 子	羽後町消防団	分 団 長	鈴 木 篤
湯沢市消防団	副 分 団 長	兼 子 浩 文			

◆優良女性消防隊 (1隊)

大仙市女性消防隊

◆永年勤続職員表彰 (都道府県消防協会等役職員) (1名)

秋田県消防協会 主 査 佐 藤 孝 子

第49回

消防職員意見発表秋田県大会

秋田県消防長会

第49回消防職員意見発表秋田県大会が、2月6日(金)、ホテルメトロポリタン秋田で行われ、最優秀賞1名、優秀賞2名が選ばれました。

本稿では、最優秀賞に輝いた長谷川香子さんの意見を紹介します。

■最優秀賞

秋田市消防本部

消防士 長谷川 香子

■優秀賞

北秋田市消防本部

消防副士長 中嶋 晃大

大曲仙北広域消防本部

消防士 佐藤 創一朗

女性消防士が活躍

する時代の救助大会

秋田市消防本部

長谷川 香子

近年、社会全体において、男性と同様に女性が働きやすい環境が広がっています。消防組織においても、女性職員の割合は増加し様々な消防業務で、女性職員の活躍の場が広がってきています。しかし、それはまだ完全ではなく、女性職員がさらに活躍できる場を広げることが必要だと考えます。

私は、数年間、消防救助技術指導会水上の部に挑戦してきました。女性職員でも、訓練を重ねることで、標準タイムをクリアすることは可能です。しかし、どれだけ訓練をして努力を重ねても、男性と同一の基準で競う限り、身体的、筋力的要因から上位の成績を収めることは難しいと痛感しました。男女が同じ土俵で競う現在の形式では女性の努力が正當に評価されにくく、女性職員にとって、消防救助技術指導会への挑戦をしにくくし、活躍の場が狭められているように感じます。

そこで私は、消防救助技術指導会「女性の部」の創設を提案します。これは、決して女性を特別扱いすることではなく、指導会に挑戦する女性職員の努力を正當に評価してもらうための環境を整える前向きな取組です。女性の部を創設することで、女性同士の競い合いとなるため挑戦したいと思う女性職員が増える可能性がります。しかし、女性職員が増えているものの、男性職員に比べればまだまだ少なく、団体競技においても所属消防本部の女性職員で挑戦するのは難しいのが現状です。その場合には、県内消防本部の女性職員との合同チームで団体戦に挑戦できる新たな参加形態を検討することも一つの方法だと思います。こうした取り組みにより女性職員が挑戦し

やすい環境へと繋げるだけでなく、県内消防本部の女性職員の繋がりも増え、一体感が生まれることも期待できます。更には、「市や県指導会だけに留まらず東北指導会、全国指導会に出場し上位を狙いたい、活躍したい」といった向上心が生まれ、それが、日々訓練や現場活動でも生かされると思います。こういった女性職員の姿勢が消防組織全体の活性化にも繋がると考えます。こういった女性職員の活躍がメディア等を通じて社会全体に伝わり、消防組織における女性職員への注目度も上がり、「私も消防士になりたい」と消防を目指そうとする女性が増えることも期待できます。

しかし、いきなり女性の部を創設することに難色を示す人もいるかもしれません。そこでまず、消防救助技術指導会における女性基準の審査方法を設けます。これは女性職員に合わせたアドバンテージタイムを設定し、男性職員との平等化を図ることを目的としています。この審査方法を設けることで、男性職員との評価の差が減り、女性職員の活躍の場が増え、指導会に挑戦しやすい環境を整えることができます。さらに、今後指導会に挑戦する女性職員が増えるならば、女性の部創設へと発展していくきっかけにもなります。また、全国指導会のポスターを見

ると、多くのスポンサー企業が協賛してくれています。もし、指導会で活躍する女性職員の姿が増えれば、女性職員を応援したいという企業が増える可能性があります。その結果、女性が着用しやすい防火衣や活動服、さらには、女性の身体的特性を考慮した資機材の開発が進むことも期待できます。

これからの消防組織は多様性を尊重し、性別問わずだれもが挑戦しやすい環境を作り、男女それぞれの強みを生かして、様々な場面で活躍の場を広げていく必要があります。これからの消防救助技術指導会を今以上に女性職員が活躍し挑戦できる場にするためにも。





長谷川 香子さん(最優秀賞)



佐藤 創一朗さん(優秀賞)



中嶋 晃大さん(優秀賞)

意見発表のテーマと発表者名

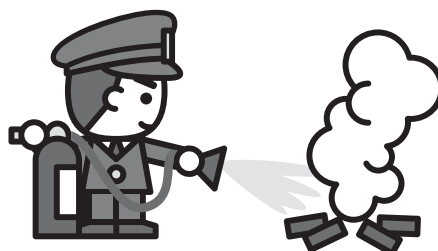
- (1) 新たな自然災害
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部 藤原 慶人
- (2) 判断で救う命 体験で変える避難
五城目町消防本部 雄鹿 柚生
- (3) 咲かせよう防災の花
由利本荘市消防本部 木内 大智
- (4) 命をつなぐ道しるべ
能代山本広域市町村圏組合消防本部 神馬 真翔
- (5) 元気なふりは、燻っている
北秋田市消防本部 中嶋 晃大
- (6) 夢を。
湖東地区消防本部 樋渡 奈瑠人
- (7) 女性消防士が活躍する時代の救助大会
秋田市消防本部 長谷川 香子
- (8) こどもたちへの防災「興」育
大館市消防本部 奥村 甲
- (9) 経験を力に変える
にかほ市消防本部 齋藤 幸征
- (10) ともに築く“本当の備え”
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 佐藤 創一朗
- (11) 消防ガバメントハンター育成～私たちの街は私たちが護る～
横手市消防本部 大淵 優太郎
- (12) つなぐ
鹿角広域行政組合消防本部 田中 優真
- (13) 逃げる勇氣
男鹿地区消防本部 宮崎 泰我

◆ 消防団員研修 ◆

秋田県消防学校

消防団名	階級	氏名
北秋田市	団員	近藤 航
北秋田市	団員	高橋 頌太
上小阿仁村	団員	折笠 昭宏
男鹿市	団員	渡部 俊
八郎潟町	団員	北嶋 武徳
八郎潟町	団員	京極 幸村
秋田市	団員	太田 源
秋田市	団員	田仲 祐介
秋田市	団員	藤本 康平
秋田市	団員	佐藤 友紀
秋田市	団員	田中 尚
秋田市	団員	福田 あい子
湯沢市	団員	遠藤 舜也
湯沢市	団員	山脇 大知

第70期基礎教育	
教育期間	令和8年3月7日(出)～3月8日(日)
入校者数	14人(6消防団)
対象者	入団して概ね3年未満の消防団員
集合写真	



◆ 消 防 団 員 研 修 ◆

秋田県消防学校

第 8 期幹部教育指揮幹部科現場指揮課程			第 11 期幹部教育指揮幹部科分団指揮課程			
令和 8 年 3 月 14 日(土)～ 3 月 15 日(日)			教育期間	令和 8 年 2 月 28 日(土)～ 3 月 1 日(日)		
18 人 (10 消防団)			入校者数	25 人 (13 消防団)		
部長又は部長と同等の実務経験を有する者			対 象 者	分団長、副分団長の階級にある者		
			集合写真			
消防団名	階 級	氏 名	入 校 者 名 簿	消防団名	階 級	氏 名
鹿 角 市	班 長	目 時 信 彰		鹿 角 市	副分団長	大 森 光 春
北 秋 田 市	部 長	太 田 昭 博		大 館 市	副分団長	杉 湊 幸 治
上小阿仁村	部 長	村 田 正 人		北 秋 田 市	副分団長	佐 藤 正 晴
秋 田 市	部 長	斉 藤 一 成		三 種 町	分 団 長	工 藤 秀 易
秋 田 市	部 長	石 郷 岡 歩		三 種 町	副分団長	近 藤 宏 幸
秋 田 市	部 長	嶋 田 健		男 鹿 市	副分団長	米 屋 樹
秋 田 市	班 長	尾 形 明 仁		八 郎 潟 町	副分団長	菊 地 宏 明
由利本荘市	部 長	長 谷 部 悟		秋 田 市	分 団 長	大 山 康 雄
由利本荘市	部 長	佐 藤 一 晃		秋 田 市	分 団 長	佐 々 木 啓 悦
由利本荘市	部 長	佐 々 木 秀 樹		秋 田 市	分 団 長	塚 田 誠 徳
由利本荘市	班 長	畠 山 孝 将		秋 田 市	副分団長	石 塚 良 一
にかほ市	部 長	須 藤 雄 也		秋 田 市	分 団 長	佐 藤 隆 徳
にかほ市	部 長	須 藤 公 明		由利本荘市	分 団 長	木 内 健 悟
にかほ市	班 長	佐 々 木 一 也		にかほ市	分 団 長	今 野 俊 一
大 仙 市	部 長	高 橋 猛		にかほ市	副分団長	佐 々 木 鎮 樹
横 手 市	部 長	太 田 正 己		にかほ市	副分団長	吉 川 紘 樹
湯 沢 市	部 長	沼 倉 透 記		大 仙 市	分 団 長	児 玉 龍 司
東 成 瀬 村	部 長	佐 々 木 喜 広		仙 北 市	副分団長	戸 澤 至
				横 手 市	分 団 長	佐 藤 徳 松
			横 手 市	分 団 長	笈 川 輝 道	
			横 手 市	分 団 長	築 山 誠	
			横 手 市	副分団長	佐 藤 健 一	
			湯 沢 市	副分団長	兼 子 浩 文	
			湯 沢 市	副分団長	高 久 義 和	
			湯 沢 市	副分団長	石 成 久 義	

防災活動車が交付されました

日本消防協会から鹿角市消防団に車両が交付され、御礼のメッセージが寄せられました。

このたび交付を受けました「防災学習・災害活動車」につきましては、地域の防火啓発をはじめ、近年、季節を問わず発生している災害の予防活動に活躍できると期待されています。また、災害時には、車両の特性を生かした人員運搬や資機材運送等を中心に、地域の安全安心のため消防団活動に努めてまいります。



支部情報アラカルト

消防団員教養研修会を開催

去る3月1日(日)、鹿角広域行政組合消防庁舎を会場に鹿角支部消防団員教養研修会を開催しました。

鹿角支部では、消防団員の減少や高齢化により、現場対応及び訓練における指導者不足などが課題となっています。本研修では、消防活動の基礎となる訓練礼式を若手団員や若年団員に指導できる指導者の育成のほか、災害現場での活動要領の再確認



と安全管理に関する留意点などを消防職員から講義を受け、消防団幹部として必要な知識を認識できる貴重な機会となりました。

団員からは、「訓練礼式について改めて勉強になった」、「現場での危険に関するものが明確になった」などといった声が聞かれ、今後において個人スキルの向上はもちろんのこと、団員同士の連携強化が図られ、組織としての対応力が一段と高まることが期待されます。

鹿角支部では、これからもこうした訓練を通じて、地域の安全安心を守ってまいります。



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課消防保安室調べ)

	令和 8 年		令和 7 年			同期比較	
	3月	累計	3月	累計	年計	3月	累計
建 物	9	37	27	55	186	-18	-18
林 野	2	2	0	0	7	2	2
車 輛	4	7	1	8	28	3	- 1
その他	11	15	4	4	54	7	11
合 計	26	61	32	67	275	- 6	- 6
死者数	0	7	2	2	16	- 2	5
負傷者数	1	6	3	13	51	- 2	- 7

(情報提供 鹿角支部)

